

新宮山彦ぐるーぶ第2020回13

持経宿への物資(ビール・コーラ・夕食食材)補給と

白谷林道状況確認及び行仙宿荷上げと玉置神社売店訪問

◇実施日：2019年05月04日(土) 晴

◇参加者：沖崎吉信。 1名。

4月30日～5月2日の三日間行仙宿の小屋番に従事し、5月2日夕方に帰宅した。

携帯電話に村吉さんの着信がある、何かトラブルがあったのか、又補給品の依頼なのか気になる。明日、行仙宿へ荷上げに出向くが、急拠持経宿経由で出向く事にする。

持経宿の小屋番は、4月28日～30日間は豊嶋・樋口・前田・久保。4月30日～5月4日間は村吉。5月3日～5日間は豊嶋。

となっており、4日のこの日は、豊嶋さんは明日、村吉さんはこの日午後下山となっている。又、この日山上ヶ岳の戸開け行事に参加した栗原眞行氏が、持経宿に泊まるのでよろしくとのメールもあって、夕食時の魚と併せてビール、コーラを準備した。

当日早朝5時15分、バイクに荷を満載して家を出る。

5月に入ったからと言っても早朝のバイク走行は、寒く冬着着用で正解だった。いつものコースで7時過ぎゲート前へ着く。

池郷林道で3組7人に出合う。一組の3人は持経宿経由で前鬼までガンバル、外は持経宿から下山組みで、昨晚15名が泊まったとのことであった。

池郷林道は、相変わらずの状態で7時半すぎ持経宿着。缶ビール一箱、コーラ15本を届ける。

・豊嶋さんは、玄関横倉庫整理、小屋の片付けなど。

・村吉さんは、毛布干し・志納金の帳尻合せなど。

忙しくされていた。トラブルなど無かったが、とにかく来宿者が多く対応に忙しかったとのこと。

40～50分滞在したが、その間この日深仙宿を出発した縦走者が一人、二人と持経宿に着く、この間に七～八人やって来たが、年令的にも若い方が多いが、皆さんコカコーラを所望された。

昨夜「深仙宿は7人、お堂が3人でテント泊が15張近くあったとの情報、大半が行仙宿を目指す様だ」との話があった。

8時半に白谷林道へ入る。昨年暮、奈良森林管理事務所が重機を入れ整備されたが、以後利用走行していないので情報は無い。行ける所まで行ってダメなら引返すつもりだった。村吉さんから「平治谷迄の約2kmは確認済」の話をいただいたが、平治谷を過ぎ、次のカーブ先で落石が、その先で道崩れや倒木かとヒヤヒヤものだったが、15分走り20分走ると、この状況なら大丈夫と確信に変わり不安はなくなった。30分ジャストでゲートに着いた。池郷林道より走行しやすい。

9時過ぎに行仙登山口に、山口さんは既に着いていた。程なく乾さんがやって来る。先着の生熊さん運転で4人が乗込み終点へ。川島さんは、補給路整備中のため、乾、生熊のお二人がその現場へ、山口・沖崎の二名は、荷を持ち行仙宿へ向う。

小屋では、志岐さんは水汲みに。山本さんは来宿者、通過者の対応やコーラの販売、小屋の片付けや食事の準備に大奮闘されていた。

生駒市の岡崎謙一、奈良市の片山久晴のお二人は、我々の活動を理解され、一度体験したいとの連絡があつて、5月3日～4日の一泊二日で参加された。

昼食をほさみお二人には、新宮山彦の歴史や活動など少々話をさせていただいたり荷上げのお手伝いをしていただき、14時前に小屋をあとにした。尚、行仙まで来て足を痛めていた和歌山市の登山客を、岡崎さんにご無理をお願いし吉野口の駅までお送り願った。

帰路、玉置神社へ向う。21世紀の森、奥駈道案内板を過ぎ、しばらく走ると登山者一人が車道を歩いている、かなりお疲れの

様子だ。山道こりこり車道の方が短く楽と思ったのであろう、かえって長く勾配もきついのが、戻れとも言えず横を通過する。

花折塚を過ぎると何人も行仙を出て玉置へ向う縦走者が歩いている。「もう少しだガンバレ！」とエール。

玉置神社駐車場目前に来てビックリ、駐車場に入れない車が100m位列をなしている。5〜6人のガードマンが一台出たら一台を入れる様で、バイクはトイレの裏へ誘導された。

すぐ売店へ向う、売店横にもテーブルを置き繁盛している。店内も行仙からの到着者が3名食事中。

売店の栄山さんから「青木さんの顔久しぶりに見た。連休中すごい人多忙。毎日夜7時までガンバツている」の話があり、行仙から玉置山へ向う縦走者に対して、営業時間は午後4時から4時半までと知らせたが、そうではなかった。

来年以後、栄山さんへの問合せも大事だ。あまりにも多忙で長話しもできず帰路についた。

(記：沖崎)